

教務委員会
 情報・データサイエンス教育運営チーム

令和 7 年度 「仙台大学 DX 人材育成プログラム（リテラシーレベル）」の自己点検

No.	項目	点検結果	内容・改善等
1	プログラムの履修・修得状況	○	令和 7 年度の修了者は 386 名であり、これまでの累計修了者数は 1,528 名に達した。学科により履修状況に若干の差は認められるものの、全体としての履修率は安定的に推移していると評価できる。これは、新年度オリエンテーションでの周知徹底に加え、先輩から後輩への口コミ等による波及効果の表れと考えられる。さらに、令和 7 年度より本学プログラムが文部科学省の「応用基礎レベル」に採択されたことも、学生の関心を高める要因となったと推測される。今後も教育内容の一層の充実を図り、継続的な履修者確保に取り組んでいく。
2	学修成果	○	本プログラムを構成する各科目において、実践的かつ具体的な学修成果が確認された。 「情報処理」：ICT に苦手意識を持つ学生に対しても、文部科学省認定プログラムであることを意図した授業展開を行うことで、AI やデータサイエンス関連の知識を身近なものとして理解させることができた。今後は、「プログラム修了・資格認定」という具体的な目標をさらに有効に活用し、学生の学修の動機付けをより一層強化していく。 「教養数学」：運動生理学等の研究現場におけるデータ処理・表現を意識させながら指導を行った。統計的手法を用いたデータの整理・表現力や、複数の標本集団における差異の有無を論理的に考察する力の育成を目標とし、結果として多くの学生に統計学の基礎的手法を修得させることができた。
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○	授業科目ごとに開講時限別の授業アンケートを実施するとともに、修了者を対象に「本教育プログラムを通じた学びについて」のアンケート調査を実施した。その結果、大半の学生が学修内容を概ね理解しており、数理・データサイエンス・AI に関する知識やスキルの向上を実感していることが確認された。今後もさらなる教育効果の向上を目指し、授業担当教員間で定期的な意見交換等を行い、継続的な授業改善に努めていく。
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○	修了者を対象としたアンケート調査の結果、大半の学生が本教育プログラムを後輩等に「推奨したい」と考えていることが明らかになった。また、本プログラムでは修了証を電子データで交付しており、学修の成果が「見える」形として残る仕組みを採用している。この点が学生の達成感に繋がり、高い推奨意向をもたらす一因となっていると分析している。
5	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○	累計修了者 1,528 名のうち、令和 7 年度を含めすでに 406 名が卒業し社会へ巣立っている。主な進路先は、教員、幼稚園教諭・保育士、公務員（警察、自衛隊、刑務官、消防、市町村役場等）、プロスポーツ・実業団選手、スポーツチームスタッフ・スポーツ関連企業、医療・福祉機関、栄養士、警備業、および一般企業など多岐にわたる。当プログラムで修得したデジタルスキルや論理的な課題解決力は、専門分野を問わずどのような職種・現場においても幅広く活用できる汎用的な能力として機能していると評価できる。
6	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○	卒業生が在籍している事業所や、学内合同業界研究セミナーに参加した企業を対象にアンケート調査を実施している。採用側（産業界）が学生に対して在学中に身につけてほしいと期待する ICT スキルやデータ活用能力のニーズを定期的に聞き取っており、これらの客観的意見を今後の本教育プログラムの教育内容を充実・改善させるための基礎資料として継続的に活用している。